

おだがいさま

odagaisama

77号
平成30年
8月1日発行



子どもたちの
学習のお手伝いは
私たちの喜び

「子どもたちの学びを支援する会」で学習支援活動をしている
代表の小泉信三さんにお話を伺いました。

子どもたちの学びを支える

鶴岡市内では、「子どもたちの学びを支援する会」「NPO法人山形県ひとり親家庭福祉会（県委託）」「子ども支援ボランティア『チーム飛躍』」の3団体が、それぞれ通年の学習支援を行っています。取り組み方に違いはありますが、いずれの学習支援も単に勉強を教える場ではなく、成長を支える多様な経験や地域の人たちとのつながりを大切にしたい子どもたちの居場所となっています。

このような取り組みが全国的に増えている背景には、大きな社会的課題として子どもの貧困があります。国でも、子どもの貧困対策に関する基本理念をまとめた「子どもの貧困対策に関する法律」が平成26年1月から施行され、子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右されることのない社会の実現を目指し、様々な形で学習・生活面等の支援が推進されています。

・学習支援をはじめたきっかけは？

知人から「定年で教員を辞め、時間ができ、何もせず、ぼやっとしている時間が多くなった。これまでの経験を活かし、子どもたちの学習支援を行い、貧困の連鎖を少しでも防ぎたい。」と相談を受けました。私も同様な考えを持っていたので、同じ思いを持つ元教員の5人の仲間と相談し、昨年11月から子どもの学習支援活動を始め、途中から若い仲間も加わりました。

・今後どのような活動にしていきたいですか？

地域の子どもたちを地域に住む退職教員等で学習支援していくのが一番いいと思います。地域に住む子どもたちとの関わりが少なくなってきた現在の、地域に住む退職教員や地域のボランティア等がこれまでの経験を活かし、地域ぐるみで子どもたちを見守る体制ができればいいなと思っています。

フラッとたいけん

ユニバーサルデザイン

～体験、気づき、私にできることは何だろう？～

6月10日(日)イオンモール三川店を会場に「フラッとたいけんユニバーサルデザイン」が開催されました。このイベントは、くらしの中の障壁を体験することで、相手への理解を深め、心のバリアフリーを推進し、ユニバーサル社会の更なる拡充を図ることを目的に、公益社団法人鶴岡青年会議所の主催で開催されました。

自走式や最新の電動車イスに乗車した子どもたちは「操作が思ったより難

気づき、そして…
子どもたちの感想

当日は、高齢者や妊婦、車イス利用者等の生活を体験できるブースや、手話の講座、視覚に障害のあるピアノ演奏者・今野加世さんの演奏会など多彩なプログラムが用意され、親子連れの参加者で賑わっていました。



会場に響き渡る、美しいピアノの音色♪

まずは体験！
多彩なプログラム

年齢、性別、障害の有無、文化などの違いにかかわらず、誰もが地域社会の一員として支え合う中で安心して暮らし、一人ひとりが持てる力を発揮して元気に活動できる社会をユニバーサル社会といえます。

ユニバーサル社会って
どんな社会？



鶴岡青年会議所会員
2018年度地域交流
委員会委員長
神子 和義さん

地域交流委員長の神子和義さんは、「体験してみることで、相手の立場に立って考えることができるようになる。相手への理解から何か一つでも気づきを得ることで、おもいやりが生まれ、心のバリアフリーが進む。おもいやりを持った人が増えていってくれば何より。」とイベントに対する想いを語ってくれました。

「地域のために」
地域交流委員長の思い



お母さん、みてみて！
車イスってこうやって乗るんだよ！！

しかった「段差を登るのが大変だった、今度困っている人がいたら声をかけてみようと思う」と初めての車イスに緊張しながらも、笑顔を見せていました。

鶴岡市社会福祉協議会正規職員採用試験（平成31年4月1日採用予定）



■受験資格

昭和39年4月2日以降に生まれた方で、下記の資格・免許を取得、研修を修了している方又は平成31年4月末日までに取得、修了見込みの方
○社会福祉士 ○精神保健福祉士 ○介護福祉士
○介護支援専門員 ○保育士 ○保健師 ○看護師
○准看護師 ○理学療法士 ○作業療法士

■採用予定数 若干名

■試験日 一次試験 作文試験 平成30年9月2日(日)
二次試験 面接試験 平成30年9月23日(日)

■試験会場 鶴岡市総合保健福祉センター にこふる

■応募方法

○募集要項・応募書類の取得
・事務局総務課職員係で交付します。
・本会ホームページからダウンロードできます。
・郵便で請求する場合は封筒に「職員募集要項請求」と朱書きし、宛先を明記した返信用封筒(角形2号、140円分切手貼付)を同封して、下記まで請求して下さい。

〒997-0033 山形県鶴岡市泉町5-30
社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会 事務局総務課職員係

○募集期間
平成30年7月17日(火)～平成30年8月20日(月)
午前8時30分～午後5時15分(土、日、祝日を除く)
※郵送の場合、8月20日(月)までの消印有効です。

平成29年度 事業報告と決算報告

福祉クイズ

① シャンプー

② 多目的トイレ

③ 自動ドア

高齢者世帯や認知症高齢者の一層の増加、また、社会的孤立、ひきこもり、生活困窮、高齢者・障がい者・児童に対する虐待など様々な地域課題、生活課題が多様化、深刻化してきており、地域の福祉力への期待はますます高まってきています。

こうした状況において、社会福祉法に定められた「地域福祉の推進を図ることを目的とする団体」（第109条）として、社会福祉に関する「協議会」であるという原点を踏まえながら個別支援と地域づくりに取り組み、市民、行政、関係機関、団体からのご理解とご協力をいただき、地域福祉活動の推進と事業経営の健全化に向けて各事業計画の遂行に努めました。

地域福祉事業 地域福祉活動計画と地域支え合いプランの計画的な実施

地域福祉活動計画「おだがいさまのまちづくり計画 2015」における、住民主体による地域福祉活動、災害時のボランティア活動、コミュニティソーシャルワーク 実践を充実するための仕組みや体制整備を継続的に推進しました。

社会福祉法人が行う地域貢献活動への支援等については、鶴岡地区特養連絡協議会 9 法人と連携した取組を進め、活動への一助としました。

各福祉センターで策定した「地域支え合いプラン」の推進については、各地域福祉委員会において事業推進に対する意見交換等を行いながら計画的に実施しました。

生活支援事業 自立相談支援事業と権利擁護活動の推進

鶴岡地域生活自立支援センター「くらしス」を拠点に、関係機関とのネットワークを生かし、個別支援会議で社会的孤立者や生活困窮者への相談、支援の充実に努め、就労までの支援に対する課題整理を進めました。

地域包括支援センター、障害者相談支援センター等と協働しながら、権利擁護活動及び成年後見制度の啓発活動を進め、法人後見への取組について適正な業務を行いました。

高齢者福祉事業 障がい福祉事業 高齢者福祉、障がい者福祉事業の安定的な運営

「第二期 事業経営計画」に基づき計画的に事業を推進するとともに、高齢者、障がい者サービスの更なる充実に努め、新たに介護予防・日常生活支援総合事業への取組を計画的に行いました。

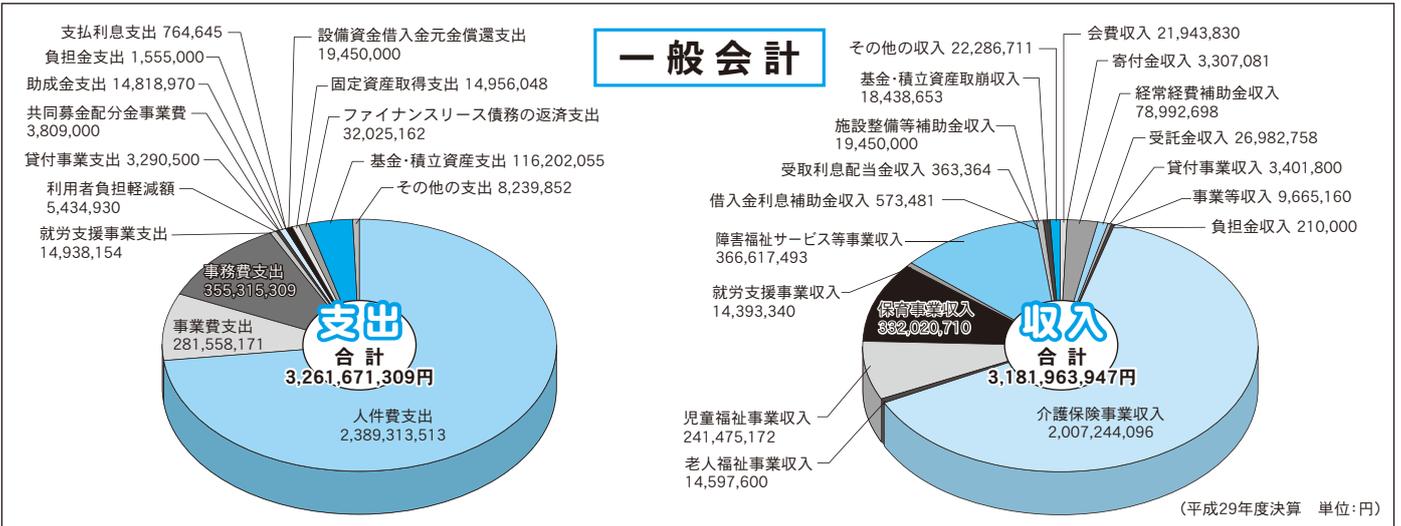
各施設における地域貢献活動の展開については、現状の取組の充実にを図りながら更なる活動の検討を行いました。

児童福祉事業 子育て支援、子どもの健全育成の充実

保育園、児童館、学童保育所(放課後児童健全育成事業)の事業運営については、事務管理の効率化、リスクマネジメント体制の強化を進めながら、事業の充実に努めました。

児童福祉施設における地域貢献活動については、児童館相互の連携強化とともに、施設機能を活用した取組について検討を進めました。

一般会計





8月15日「戦没者を追悼し平和を祈念する日」を迎えるにあたり、「鶴岡市戦没者追悼式（4月24日開催）」で捧げられた「平和へのメッセージ」をご紹介します。

～戦争を知らない世代へ～

温海中学校三年 安達 真帆

「戦争と平和について考えましょう」と言われて、すぐに思い浮かんだのは、祖母の顔です。私の祖母は戦後すぐに生まれ、戦争で薬が不足し、姉を亡くしたと聞いたからです。

祖母の両親は大阪で生活をしており、軍需工場の工場長をしていました。そのころ、朝鮮の人を雇っていたそうですが、日本人への反抗心が強く、扱いが難しい朝鮮人に対して、曾祖父は優しく接し、信頼されていたそうです。しかし、空襲が激しくなり、軍需工場が狙われたので、ここ五十川の田川炭鉱に行くよう命ぜられ、子供二人を連れて疎開したのです。炭鉱では、扱える人が少ない鉄鋼を作っていたので、大阪に帰るタイミングが合わず、新しく生まれた子供二人とともに暮らすことになりました。私の祖母は、こうして五十川に生まれ育つことになったのです。しかし、大阪で生まれた二人の子供のうち、長女は結核のために亡くなり、その弟も栄養不足のため成長が遅く、

大人になっても小柄なままだったそうです。五十川のような田舎でも食べることに困っていたなんて、戦争は本当に大変で、苦労したのだと思います。祖母は、姉が亡くなった時のお父さん、お母さんの姿を見ていたので、思い出すのも辛くて、誰にもこのことを話したことがないそうです。

お盆や正月にお寺に行くと、寺には、戦争に行つて亡くなった方たちの写真が飾ってあります。今までは気にもとめずに見ていましたが、思えば、悲しそうな表情で写っていました。誰も、戦争に行きたくて行ったわけではないのだろうと思います。私の曾祖父は戦争に行かなかったものの、戦争に行つた人や残された人を助けていました。戦争は、誰も幸せにしない、辛いだけのものだと思います。私は祖母から話を聞くことができ、本当に良かったと思います。会ったことのない曾祖父や祖母の姉のことを思い、平和な今の生活を大事にしていこうと強く感じています。



ご寄付ありがとうございました

みなさまのご厚志に心より御礼申し上げます。
(平成30年5月7日～平成30年7月11日までのご寄付を掲載しています)

★一般社会福祉事業へ

◎鶴岡福祉センターへ

- ・五十嵐 新一 様 10,000円
- ・(有)山パイロットファーム 様
子ども食堂へ/精米48kg
- ・ますや旅館 様 子ども食堂へ/孟宗
- ・国際ソロプチミスト鶴岡 様 100,000円
- ・匿名 80,000円
- ・遠州流茶道山形支部青年部 様 47,000円
- ・鶴岡建設株親善ゴルフ大会 様 102,700円
- ・山形県退職公務員連盟鶴岡田川支部会 様
フェイスタオル348枚

◎鶴引福祉センターへ

- ・長南 歩美 様 チャイルドシート1点

- ・佐藤 正男 様 20,177円

◎朝日福祉センターへ

- ・株式会社アサヒニイズマ 様 100,000円

◎温海福祉センターへ

- ・齋藤 彦一 様 50,000円

★高齢者福祉センターおおやまへ

- ・匿名 ポールベン各種160本

★とよら老人デイサービスセンターへ

- ・難波 安希 様 折り畳み式ベッド1台

- ・三瀬婦人会 様

- フェイスタオル27枚、手縫い雑巾10枚

★温海デイサービスセンター愛寿園へ

- ・齋藤 彦一 様 20,000円

- ・温海地域婦人会 様

タオル150枚、古布等100枚

- ・本間 勉 様 30,000円

★もみじが丘へ

- ・株式会社ライン工業 様 布生地、糸一式

- ・あつみ温泉女性会 様 タオル50枚

- ・温海地域婦人会 様 タオル60枚、古布30枚

★くしびき東部保育園へ

- ・鶴岡信用金庫 様 絵本と紙芝居10冊

★特別指定寄付

- ・株式会社アークベル 様 500,000円

清流苑、健康園、多機能かも、

小規模多機能はぐろ、工房せいへ

おだがいさま

第77号

平成30年8月1日発行

発行部数 48,800部



編集・発行

社会福祉法人 鶴岡市社会福祉協議会

鶴岡市泉町5番30号 (にこ♥ふる2階)

TEL 0235-24-0053 FAX 0235-23-9110

ホームページ <http://www.shk01.jp/>

鶴岡福祉センター TEL 24-0053

藤島福祉センター TEL 64-3100

羽黒福祉センター TEL 62-4534

鶴引福祉センター TEL 57-5300

朝日福祉センター TEL 53-2795

温海福祉センター TEL 43-2114

この広報紙は、赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています。